



戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない。

芦屋ユネスコ協会 70 年のあゆみ

《エピソードⅢ》

芦屋ユネスコ協会の再スタート

■芦屋ユネスコ活動活性化準備会

県の運営となったユネスコ会館でボランティア活動が続けてきた芦屋ユネスコ協会でしたが、その後婦人会のバックアップのもと活動が続けてきましたが、時代と共にメンバーがカルチャーセンター・テニス・ゴルフなど趣味のサークルへと流れ、その運営も難しくなり足踏み状態となっていた平成 7 年（1995 年）に阪神・淡路大震災が起こり、会員数の激減と会員の高齢化に伴い、暫くの間ユネスコ活動は中断していました。

平成 12 年（2000 年）4 月、芦屋市教育委員会生涯学習課から呼びかけがあり、廣瀬忠子氏・山田利郎氏など 10 名が集まり、「ユネスコ協会活性化に向けての準備会」が開催されました。以後数回の準備会が開催され、その後の事業計画や役員の選出、また運営について話し合いました。そして、同年 8 月 31 日、芦屋市民センター 301 室において「総会」を開催、廣瀬忠子氏を会長に、事務局長には山田利郎氏を選出し、22 人の役員が中心となり再スタートを切ることになりました。



●平成 5 年（1993 年）12 月、第 17 回世界遺産委員会において、法隆寺とともに姫路城が、日本初の世界文化遺産のリストに登録されました。

■21 世紀の芦屋ユネスコ協会

平成 12 年（2000 年）8 月に再スタートした芦屋ユネスコ協会の新事業には、多くの女性から一般教養を高めるセミナー開講の要望があったことから「レディス・セミナー」を発足させ、活動の柱としました。このセミナーは大変好評を得たため、平成 29 年（2017 年）3 月に閉会するまでの長きにわたり続けられました。

また、同年には学生クラブも「世界遺産セミナー」など活発に活動を開始しましたが、学生の卒業等に伴い徐々に活動は困難となり、現在は休会中となっています。

さらに同年10月10日には阪神間ユネスコ連絡会の「合同事業」を芦屋が担当（阪神8コ協が毎年交代で担当）し、『ユネスコ世界遺産としての姫路城』と題した講演会（講師：菅原美文氏）を開催しました。

そして12月には「年末講演会＆親睦会」に外務省特命全権大使に講演をいただいて開催しましたが、これは70周年を迎える現在まで続く新たな伝統となっています。

このほか、協会ホームページの開設や「AU通信」（年4回発行）もこの年から始まり、現在に至っています。



平成13年（2001年）には「世界文化遺産見学ツアー」を開始、平成14年（2002年）には「書き損じはがき」の回収開始、平成14年（2003年）からは「平和の鐘を鳴らそう」行事が始まり、毎年8月15日には芦屋市民センターの玄関横に市民が集い、正午のサイレンで黙祷、芦屋市婦人会によって寄贈された『優愛の鐘』をみんなで鳴らし、戦没者への追悼と平和への祈りを捧げています。

平成18年（2006年）＜民間ユネスコ運動発祥60

周年＞からは、毎年「民間ユネスコの日」（7月19日）街頭PR活動も実施されるようになりました。

そしてこのころから民間ユネスコ運動の運動方針として、「つなげよう 平和の心～共に生きる世界を目指して、学び・行動する民間ユネスコ運動へ～」を掲げ、『『平和の文化』実践活動』・「世界寺子屋運動」・「世界遺産・地域遺産活動」を3つの柱として活動を進めていきました。

平成20年（2008年）には、それまでの芦屋ユネスコ協会の功績に対し「芦屋市民文化賞」が授与されました。

また平成21年（2009年）11月には、学生15名で青年部を発足させました。しかし、メンバーの卒業等に伴い、現在は休会状況となっています。

さらに平成21年（2009年）からは「市民が選ぶ芦屋の未来遺産運動」がスタート、翌年5月には市民にアンケートを実施し、同年10月にはその結果をまとめた冊子「みんなで選んだ 芦屋の未来遺産～芦屋文化の100年リレー～」(62ページ)を発行し、平成25年（2013年）11月には、その補完・解説版(145頁)を発行しました。

平成22年（2010年）には、芦屋ラポルテホールで「合同事業」を開催。外務省特命全権大使・田邊隆一氏に「私の海外経験と日本の役割」と題して講演を、また第2部では日本ヘルマンハーブ協会理事長・梶原千沙都氏とスペシャルオリンピックのアスリートメンバーによる「ヘルマンハーブ演奏会」を実施、好評を得ました。

平成28年（2016年）には役員改選を行い、廣瀬忠子氏を名誉会長とし、会長に山田利郎氏、事務局長に塩井君子氏を配し、22名の役員で芦屋ユネスコ協会の運営をしていくことになりました。

平成29年（2017年）には、芦屋ユネスコ協会創立70周年を記念し、さまざまな記念事業を開催しています。



2017年度 芦屋ユネスコ協会 「平和の鐘を鳴らそう！」行事開催



それぞれの思いを込め「優愛の鐘」を高らかに鳴らし、平和への誓いを新たにしました。

本年も、72年目の終戦記念日に当たる8月15日(火)、芦屋市・芦屋市教育委員会・芦屋ユネスコ協会が共催して、「平和の鐘を鳴らそう」行事を盛大に実施しました。

第1部では、芦屋市民センター玄関横に設置された「優愛の鐘」を、山中市長をはじめ、芦屋ユネスコ協会会員やその家族、また市民など約60人の皆さんが集い、『平和の祈りと願い』を込めた行事を実施しました。

山中市長のご挨拶の後、参会者全員でユネスコの「平和宣言」を唱和し、正午のサイレンとともに黙祷、その後



神戸新聞 2017年(平成29年)8月16日 水曜日

平和の心つないで 芦屋

戦争の記憶を語り継ぎ、平和を祈る催し「平和の鐘を鳴らそう」が15日、芦屋市民センター(業平町)で開かれた。約60人が鐘を打ち鳴らした後、場所を移し、戦時中の食卓に並んだふかし芋を食べながら戦争体験者の話を聞いた。

市や芦屋ユネスコ協会が毎年終戦の日開催。式典では、同協会の塩井努副会長(78)が「多くの犠牲があつて今がある。平和の心をつないでいかなければならない」と話し、正午のサイレンに合わせて黙とうをささげ、「優愛の鐘」を打ち鳴らした。

式典後はリードあしや(公光町)に移動し、戦争を経験した由里正雄さん(87)「春日町」が「配給された芋の茎を油で炒めて食べた。戦時中は満腹になることがなかった」と疎開先での体験を語った。参加者は用意されたふかし芋を手

体験者の話聞き 「戦時食」試食も

はなしん
戦後72年
由里さんの孫で山手中1年の由里涼葉さん(13)「松ノ内町」は「芋の茎は食べたことがない。知らないことが多いので、もっと調べてみたい」と話した。
(竜門和諒)



戦時中の話を聞きながらふかし芋を食べる子どもたち＝リードあしや



引き続き、休館日(火曜日)の市民センターから会場をリードあしやに移し、第2部「平和のつどい」を実施しました。

今回は、芦屋市生涯学習課の学芸員・竹村忠洋氏から「芦屋の空襲」についてお話していただきました。

その後、役員・会員有志にご用意いただいた戦時食のふかし芋とおにぎりを食しながら、参加されていた数人のかたから、戦中・戦後の体験談、戦争の悲惨さや平和がどれだけ大切かに

ついて、切々と語っていただきました。

それぞれのお話に、戦後72年が経過した今日ではありますが、参加者全員が感銘を受けました。

最後は、恒例となった記念イベント「みんなで平和のうたを歌いましょう！」が実施されました。

声楽家・加藤純子さん(ソプラノ)によるの歌唱指導があり、金沢佳代子さんのピアノ演奏と浅田太枝子さんの手話歌指導で全員で合唱しました。

こうして今年も、芦屋から世界に向けて「平和の祈りと願い」を力強く発信できました。



2017年度 芦屋ユネスコ協会 「平和の鐘を鳴らそう！」行事開催

2017年(平成29年)8月16日(水曜日)

宣

宣

衆

門

72回目の終戦記念日を迎えた15日、阪神地域でも追悼行事が行われた。
芦屋市民センター(業平町)では高齢者や親子連れら約60人が参加。正午に黙とうした後、「優愛の鐘」を鳴らし、手を合わせた。ふかし芋を食べながら戦時中の暮らしや平和への思いを語り合う場も設けられた。
同市は隣接する神戸市を目標にした焼夷弾攻撃な

ど、太平洋戦争末期に4回の空襲を受け、139人が亡くなったとされる。
15歳の時、京都府の疎開先で終戦を迎えた芦屋市の由里正雄さん(87)は「戦時中は野良犬のように貧しかった。戦争の本質は人を殺し、子どもからも人間らしい生活を奪うこと。若い人には絶対に美化してはいけな」と伝えたいと語った。
3人の子と訪れた神戸市

終戦の日 各地で追悼行事

「命の重み 忘れない」



東灘区金藤裕美さん(39)は「生きていることのありがたみを実感した。子どもたちにも命の重みを忘れないでほしい」と話した。

①平和を願って鐘を鳴らす参加者(芦屋市で)②つどいの冒頭、黙とうする人たち(宝塚市で)

祈り 誓う 平和

芦屋市公光町のあしや市民活動センターリードあしやでは、芦屋ユネスコ協会などが平和を祈るイベントを開催。約80人が参加し、戦争中の生活を知ってもらおうと振る舞われたサツマイモとおにぎりを食べながら語り合った。

芦屋市の由里正雄さん(87)は孫2人を誘って参加。ふかしたサツマイモを手にとり、「こんな立派な芋は口にできなかった」と中学1年の涼葉さん(13)に語りかけた。

戦中の生活 かみ締めて

芦屋 サツマイモとおにぎり味わう

横浜市から親戚宅のあ京都府福知山市に疎開した由里さんは、当時15歳。配給されたサツマイモのつるを油で炒め、わずかな玄米を水でふやかして煮て空腹をしのいだ。「とにかくひもじかった。満足に生活も送れなくなるのが戦争なんだよ」と由里さん。涼葉さんは「満足に食べられないなんて、今の生活からは考えられない。戦争の悲惨さを忘れたくない」と話した。

【山本愛】



サツマイモとおにぎりを食べながら語り合う
由里正雄さん(右)と孫の涼葉さん
＝芦屋市公光町で

戦後72年終戦の日

戦後72年の「終戦の日」を迎えた15日、全国で関連行事が開かれた。県内でも戦没者慰霊式や集会などが開かれ、参加者たちは平和の誓いを新たにした。

平和の鐘を突いて不戦を誓う参加者＝宝塚市の末広中央公園で



8月16日 水曜日

産 経 新 聞

平和祈り市民ら鐘

芦屋 戦没者へ黙禱

72回目の「終戦の日」の15日、芦屋市業平町の市民センターで、鐘を鳴らして平和を祈る催しが行われた。市民ら約80人が参加し、正午のサイレンとともに戦没者へ黙禱をささげた。

市や芦屋ユネスコ協会などが主催。参加者はセンター玄関前にある「優愛の鐘」を一人一人鳴らし、平和への思いを新たに。その後、戦時中の食事を再現したふかし芋などを食べながら、それぞれが平和への思いを語り合った。15歳のときに疎開先の京都府福知山市で終戦を迎えた同市春日町の無職、由里正雄さん(87)は「戦争中は今日出されている芋すら食べられな

いときもあった。戦争が美化されることのないように語り継いでいくことが大切だと思う」と話した。

神戸市東灘区深江本町の小学4年、金藤遥陽君(10)は「学校で戦争のことは勉強したけれど、改めて平和が一番と思いがら鐘を鳴らしました」と話した。



平和を祈り「優愛の鐘」を鳴らす市民ら＝芦屋市業平町

72回目 終戦の日

2017 年度 芦屋ユネスコ協会
「平和の鐘を鳴らそう！」
行 事



次代へつなごう「芦屋の未来遺産」 ～芦屋文化の 100 年リレー⑫～

■ 100 年後の子どもたちへ残したい「芦屋の未来遺産 100 選」を選定

平成 29 年 5 月 23 日に開催された「芦屋の未来遺産運動推進委員会」で、芦屋市制 77 周年また芦屋ユネスコ協会創立 70 周年を記念して、「芦屋の未来遺産 100 選」を選定しました。

これは、昨年秋に開催した同委員会が企画、先に公開している冊子『みんなで選んだ芦屋の未来遺産～芦屋文化の 100 年リレー～』(2010 年発行)の中から再度選考した委員の回答を整理したものです。



富田碎花旧居(宮川町)



旧松山家住宅「松濤館」(芦屋図書館打出分室)

私たちの住む芦屋市は、自然遺産・史跡と文化財、民話や歌物語、郷土資料や芸術文化、ライフスタイルを含め、人口も 10 万人に満たない小さなまちですが、日本でも有数の、未来へ伝えるべき多くの遺産を抱える宝石のようなまちです。

この 100 選リストは、「自然遺産」「歴史遺産」「文化遺産」「景観遺産」「その他の遺産」に分類、100 年後の子どもたちへ『芦屋の遺産』をつないでいけるよう、選定しました。

このリストには個人所有の建物もあり、公開されていないものもありますが、未来へぜひ残していただきたいとの思いでリストに含めさせていただきました。

今回は、後半部分の「文化遺産」「景観遺産」「その他の遺産」についてご紹介します。

※芦屋ユネスコ協会のホームページにも、未来遺産 100 選の「一覧」を掲載しています。

〈文責:南 ゆう子〉



カトリック芦屋教会(公光町)

芦屋の文化遺産		芦屋の景観遺産・その他の遺産	
51	芦屋の民話・伝承とゆかりの地 〈ぬえ塚・金兵衛車焼け車・金津山の黄金・打出の小槌 ほか多数〉	76	愛称道路「業平さくら通り」と開森橋上流に続く桜並木 〈愛称道路は、業平橋から開森橋までの芦屋川両岸の桜並木をいう〉
52	芦屋の昔を知る文献等(歌物語・歌集・史書ほか) 〈万葉集・伊勢物語・増鏡・太平記・摂陽群談・摂津名所図会ほか〉	77	愛称道路「芦屋川松風通り」と芦屋公園のクロマツ林 〈愛称道路は、芦屋川河口から業平橋までの両岸に続く松並木〉
53	芦屋の由緒(謡曲・伝承等に由来)ある町名・橋の名 〈業平・公光・月若・船戸・親王塚・打出・打出小槌・楠 など〉	78	愛称道路「山麓線」(山手町・朝日ヶ丘町・六麓荘町) 〈県道奥山精道線から八十塚橋までの緑道。桜の名所の続く山手の道路〉
54	芦屋のまつり 〈さくらまつり・山まつり・サマーカーニバル・秋まつり〉	79	芦屋川トンネルと天井川風景 〈芦屋川の下を通行。日本初“トンネル”名称が使われた近代的隧道〉
55	芦屋市内のだんじり・だんじり祭り 〈精道・三條・山之町・打出・西之町・濱之町の6基のだんじり〉	80	芦屋川の文化的景観【市指定文化財】 〈芦屋川中・下流域両岸に広がる景観や歴史。平成 24 年指定〉
56	芦屋のお地藏さん・地藏盆 〈芦屋霊園・三条墓地の六地藏、宮川地藏通りほか、旧市街に点在〉	81	芦屋仏教会館(前田町) 〈丸紅の初代社長・伊藤長兵衛により、昭和 2 年に建造された〉
57	「芦屋カメラクラブ」創設者たちの芸術写真作品群 〈昭和 4 年創設。中山岩太・ハナヤ勘兵衛らの芸術的な写真作品群〉	82	芦屋ルナ・ホール(業平町) 〈昭和 45 年竣工。吉原治良デザイン“黒い空間に白い線”が印象的〉
58	「芦屋美術協会」創設とその功績 〈前衛美術グループ“具体”代表・吉原治良が創設。伊藤麟太郎も設立に参加〉	83	芦屋川堰堤(天然プール) 〈上流の堰堤下に自然の水たまり。川遊びする光景も夏の風物詩〉
59	芦屋文化の揺りかご「阪神間モダニズム」 〈音楽家・貴志康一、ファッション・田中千代ほか、美術・建築多数〉	84	芦屋警察・旧正面玄関(公光町) 〈昭和 2 年建造。その正面玄関のアーチの要石にはミミズクの彫刻〉
60	芦屋ユネスコ協会と近代的ボランティア精神の高揚 〈廣瀬勝代創設。婦人会・日本ユネスコ創設、日赤運動、「父の日」提唱〉	85	芦屋キャナルパーク・陽光緑地(潮見町・浜風町・陽光町) 〈シーサイドタウンと南芦屋浜との間の運河〉
61	打出公園(打出小槌町)と村上春樹「風の歌を聴け」 〈作品中に登場する“お猿の公園”。映画監督・大森一樹が同小説を映画化〉	86	芦屋市総合公園(陽光町) 〈樹木の空気浄化機能を利用した「大気汚染対策緑地」〉
62	打出焼 〈明治中期から昭和 40 年頃まで打出で作陶された特産品〉	87	芦屋国際ローンテニスクラブ(松浜町・芦屋公園内) 〈昭和 31 年、天皇・皇后の御前で国体硬式テニス試合を開催〉
63	小出樫重のアトリエ(川西町⇒伊勢町・美博へ移設) 〈画家・随筆家。復元されたアトリエは美術博物館へ移設・公開〉	88	カトリック芦屋教会(公光町) 〈昭和 30 年建造。芦屋川沿いの代表的な景観に欠かせない建物〉
64	高浜虚子記念文学館(平田町) 〈館長は虚子の孫・俳人の稲畑汀子。俳誌「ホトトギス」主宰〉	89	芦屋郵便局電話事務室【国登録有形文化財】(大槻町) 〈昭和 4 年建造。精道村時代の近代的な住民の暮らしを象徴〉
65	高浜三代句碑(月若町・月若公園内) 〈高浜虚子、月若公園近くに住んだ高浜年尾、娘・稲畑汀子の3代の句〉	90	旧中山家住宅【国登録有形文化財】(三条町) 〈昭和 5 年建造。個人宅のため非公開〉
66	細雪」碑(開森橋東詰)一名作の中の芦屋風景 〈谷崎夫人・松子さん揮毫/阪急以北の芦屋川周辺や重信医院の建物〉	91	旧松山家住宅「松濤館」【国登録有形文化財】(打出小槌町) 〈現芦屋市立図書館打出分室。明治時代の建物。昭和 27 年に市有〉
67	滴翠美術館とその美術収蔵品(山芦屋町) 〈昭和 8 年建造。山口吉郎兵衛のコレクションを中心に展示〉	92	旧山邑家住宅【国指定重要文化財】(山手町) 〈現ヨドコウ迎賓館。大正 7 年にフランク・ロイド・ライトが設計〉
68	富田碎花旧居(宮川町)―谷崎も住んだ文豪ゆかりの家 〈兵庫県文化の父。詩人。没後、市に寄贈され昭和 62 年から一般公開〉	93	文化ゾーン(伊勢町) 〈市立図書館・谷崎潤一郎記念館・市立美術博物館が建ち並ぶ地域〉
69	業平と「伊勢物語」 〈業平が主人公とされる日本の歌物語の代表作「伊勢物語」に芦屋の記述〉	94	旧六麓荘国際ホテル(現芦屋大学本館)(六麓荘町) 〈昭和 12 年建造。戦後米軍に接收、昭和 35 年芦屋学園が買収〉
70	業平の歌碑(松ノ内町・松ノ内緑地内) 〈六歌仙・業平の歌碑。平成 2 年、市制 50 周年記念に建立〉	95	六麓荘の街並み(六麓荘町) 〈趣向を凝らした大邸宅が緑の中に並び、独自の自治にも注目〉
71	業平ゆかりの「潮見桜」 〈「伊勢物語」の作者・業平が、初代「潮見桜」を植えたとの伝承〉	96	芦屋川カレッジ・学友会 〈芦屋独自のシルバー世代交流組織〉
72	「ぬえ塚」(浜芦屋町・芦屋公園内) 〈源頼政の退治した怪物が芦屋浜に漂着。村人が手厚く弔った伝承〉	97	「阪神大水害決壊の地」石碑(東芦屋町・開森橋東詰) 〈昭和 13 年、芦屋川が決壊し阪急以北に甚大な被害。「細雪」〉
73	藤木九三のレリーフ(高座の滝横の岩肌) 〈登山家。大正 13 年、芦屋ロッククライミングクラブ(RCC)結成〉	98	芦屋の戦災復興と「芦屋国際文化住宅都市建設法」 〈戦後の復興、現在の街づくりの指針の特別法。昭和 26 年公布〉
74	別荘地「松風山荘」時代の旧藤井邸(山手町・山手緑地内) 〈昭和初期に建てられた藤井邸の一部を緑地内に移築〉	99	阪神・淡路大震災と「震災慰霊の碑」(芦屋公園内) 〈平成 7 年の大地震の慰霊碑。碑には稲畑汀子氏の句〉
75	厄除観音堂(三条町) 〈民話「観音さまと牛」の舞台〉	100	パチンコ店のない駅前風景 〈戦後、国際文化住宅都市にふさわしい街づくりを官民一体で進めた〉

芦屋ユネスコ協会「年末講演会&親睦会」ご案内

早いもので、いよいよ今年も年末が近づいてまいりました。

平成 29 年度も、恒例となりました芦屋ユネスコ協会主催の「年末講演会&親睦会」を下記のとおり開催いたします。会員の皆様はもとより非会員のご家族やご親戚・ご友人・お知り合いなど多数お誘い合わせの上、奮ってご参加くださいますようご案内申し上げます。

◆日 時 12 月 19 日(火)午後 6 時～8 時 30 分 <※午後 5 時 30 分・受付開始>

◆会 場 ホテル竹園 3 階

◆内 容 ①講 演・・・政府代表 / 外務省特命全権大使 鈴木 庸一 様

②食事会・・・洋風懷石

③ビンゴ・・・景品多数—(ビンゴ券 1 枚 500 円)

④エンターテインメント・・・ソプラノ歌手・山崎 直美様

◆会 費 6,000 円(学生 3,000 円) ※当日受付でお支払いください。

◆出欠届 往復はがきをお出しします。出席・欠席にかかわらず必ず返信してください。

※お問い合わせ等は、下記までお願いします。

【事務局】本庄 恵美 電話・FAX 0797-32-7910

◆回答期限 11 月 24 日(金)<必着>

※締め切りは厳守してください。できるだけお早目のお返事をお願いします。

【お願い】 ①ビンゴの景品提供にご協力をお願いします。家に眠っているもの(新しいもの)をお持ちください。当日受付でお手渡しくだされば助かります。よろしく。

②書き損じはがきがございましたら、併せてご持参ください。

新入会員ご紹介

ご入会ありがとうございました。大歓迎です。

★植田 英三郎 様

★守上 三奈子 様

編集後記



市花 コバノミツバツツジ

- 早いもので、もう「年末講演会&親睦会」のご案内をする時期が巡ってまいりました。多くの皆様のご参加をお待ちしています。
- 今年は民間ユネスコ運動がスタートして 70 周年の記念すべき 1 年でした。芦屋ユネスコ協会におきましても、4 月から「世界遺産・地域遺産見学バスツアー」、6 月の「総会&懇親会」、7 月の「民間ユネスコ運動の日」街頭キャンペーン、8 月には市や市教委と共催で「平和の鐘を鳴らそう！」行事を、70 周年記念事業として開催してまいりました。そして最後を飾るのが、「年末講演会&親睦会」です。記念すべき年の瀬を、皆様とともに迎えたいと思います。 <南>